

## ～旧約聖書を読んで感じること～ (60) ダビデが求めた妻 アビガイル

サムエル記を読むと様々な緊迫した場面で、ダビデを始め登場人物が「主は生きておられる」という言葉を使っています。彼らは生きるか死ぬかの瀬戸際を生きていました。生きることが最大の課題です。「そんな自分の側に、神が共に生きて、守っておられる」という意味に思えます。そして、この言葉を言ったたった一人の女性がアビガイルです。彼女は聡明で美しかったと記されています。

ダビデが逃亡し、マオンに逃げて来て、食べ物にも困窮していた時、ナバルという非常に裕福な牧羊者のもとに、丁重にダビデの名を名乗らせ、「ご厚意に与れますように。お手もとにあるものをお分けください」と従者を使いに出しました。カレブ人のナバルの牧草地はユダ族の地カルメルにあり、ダビデは親切に接していたのです。ところがナバルは素性の知れぬ者と罵り、侮蔑の言葉を投げ、拒絶したのです。それは礼儀に反することでした。ダビデはナバルに報復することにしました。



David and Abigail, Jacob Cornelisz ca. 1507

災いが降りかかることを恐れたナバルの従者がナバルの妻アビガイルに事情を伝えました。アビガイルはすぐに大量のパン、ぶどう酒、調理した羊肉、麦、干し果物などを何頭かの口バに積み、ダビデのもとへ急ぎました。

「御主人様、わたしが悪うございました。お耳をお貸してください。はしための言葉をお聞きください。御主人様が、あのならず者ナバルのことなど気になさいますように…主は生きておられ、あなた御自身も生きておられます。あなたを引き止め、流血の災いに手を下すことからあなたを守ってくださったのは主です。…ここにある物は、はしめが持参した贈り物でございます。お足もとに仕える従者にお取らせくださいますように。」(サム上 25:24)

ダビデは謙虚なアビガイルの謝罪の言葉を聞き、ナバルの非礼を許しました。アビガイルが自宅に戻ると夫は豪勢な宴会で酔いしれ、上機嫌でした。次の朝、アビガイルは酔いが

さめたナバルに顛末を告げると、彼は意識を無くし石のようになり、10日後に死にました。

ナバルが死んだことを聞いたダビデは「主はたたえられよ。主は、ナバルが加えた侮辱に裁きを下し、僕に悪を行わせず、かえって、ナバルの悪をナバルの頭に返された」(サム上 25:39)と言って、アビガイルの「流血の災いに手を下さず」との言葉を思い出しました。ダビデたちに最大の厚意を示したばかりか、危機を回避したアビガイルの賢さを知り、妻にしたいと申し入れました。彼女はダビデの足元にひれ伏し、「わたしは御主人様の僕たちの足を洗うはしめになります」と言って妻となりました。

夫ナバルをならず者と言って、非礼を詫びなければならないアビガイルは、苦しい日々から解放されたことを喜んで見えるように見えます。また、ダビデは裕福な末亡人となったアビガイルを妻にすることは大きな財政的利益です。妻アヒノアムがいるにもかかわらず、ダビデは、アビガイルの美しさだけでなく、聡明さにも惹かれたのです。そして富もついてきました。

「互いの命を守るために、決断し、行動する」聡明なアビガイルとの出会いも、ダビデに、王としての生き方を方向づけたとおもいます。ダビデは親友ヨナタンの言葉を思い出したでしょう。

ヨナタンはダビデの家と契約を結び、こう言った。「主がダビデの敵に報復してくださるように。」(サム上 20:16)